

1. 献品

① 提供者 高校職員2件 修道院1件 小学校保護者多数

② 主なリスト

米 10kg×1 2kg×1 1.5kg×1 1kg×2 0.5kg×3

0.2kg×3 0.1kg×2

海苔 一箱(10枚×6パック) 20枚 10枚×2パック いりゴマ1パック

ビーフン1パック 割り箸200膳

タオル2 シャツ3 オーバー7 Tシャツ4 冬用ジャケット4

毛布3 セーター5 掛け布団1 ロングソックス3 ポロシャツ17

ベスト1 靴2 短パン2 冬ズボン6 トレーナー2

今回もまた、こんなにたくさんの献品をお預かりしました。どれも一つ一つを手にとってみると暖かいぬくもりが伝わってきました。ありがたく感じます。献品に込められた気持ちを受け取り背負って、ボランティアは夜回りや炊き出しの活動が元気にできます。さまざまな事情あって人の優しさをもしかして忘れてたり捨て去ったりした人たちにそれを伝達したいと思います。ありがとうございました。

2. 夜回り報告(11月9日)

スポーツセンター周辺から入る。国際センター裏のベンチに一人。表の庭ベンチにも一人。それぞれ寒そうにして寝ていた。要望を聞き、持って行った毛布と寝袋を渡した。「今月の炊き出し日には仙台市の結核検診が受けられるので、ぜひ10時半には五橋公園へ」と案内のチラシも渡した。旧図書館テントハウスのおじさんも検診のことは知っていて、はじめて「行く」と言った。陸橋下ハウスのおじさんの話。「橋の下のテントハウスへ、この一月で2回も救急車が来た。若夫婦の夫が吐血したらしい。」行ってみると、確かに先月はがら空きだったハウスがまたうまっていた。先月こちらに越してきたワタナベさんに聞くと、救急車騒ぎはあったけど大丈夫とのこと。声をかけたら当の本人が元気そうに米をもらいに出てきたので、こちらから体について尋ねることはしなかった。西公園が終了すると次へ出発する前に、車の中でボランティアの大谷地さんがいつもの要領で記録簿にまとめている。私はすっかりこの大学生のお嬢さんのボデーガードを兼ねた係のようにさせられているが、最近はずっと息子が一緒なので実はだいぶ楽になった。

勾当台公園 7人の人と出会った。ミカサさんは変わらない。おむすびや卵よりも、一本のタバコに実に嬉しそうに顔がほころぶ、とは見ていた息子の感想だった。いつもかけ合いをするワタナベさんが今日はいなかった。きょうは30秒で切り上げよう等と冗談を言いながら出向いて空振りだと、ポカンと穴が空いたような気分になる。

この活動の苦と嬉と痛の体験は、自分の限界を知ることであった。だいぶ以前に月一回勾当台公園で炊き出しをしていた頃は、毎週一人で昼でも夜でも回っていた。そのころ一度あって何かの約束の糸ができ、その線が太くなっていくと本人の社会復帰へとつながることがあった。以前紹介したSさんの例。しかしつまずくと修復できないことも多い。プツンといなくなれると、(むろん約束したわけではないのだが)とても心に堪えた。

3. 炊き出し(11月12日)

仕事で行けず息子だけ参加しました。前日に献品類は確かに届けておきました。

**次回12月10日(土)が炊き出しです。献品できるものがありましたらお願いします。**

〈もう一つ今回ご協力のお願い〉

12月10日18時半～駅近くの元寺小路教会で

炊き出し支援(資金作り)のための

クリスマスコンサートがあります。(大人1,000円 中高生500円)

詳細別紙または掲示ビラ

チケット高校の高橋覚まで